



あまの鬼

二



1718
2



門 18
番 1718
卷 2

心之鬼 第二

鳥勤丸事 不徳口的事

弟本勢の中よりそとらりと頼る飯米天より負て
て頼より汗の汗と流しあの手を握飯一云の汗厨と
出たりり松も柏も葉も雨も柳も首を傾き葉と
花と流るるごとく惨然としておろりりかた不し
多に陣の中より鳥勤丸事とて惨然れはの色もた
胃は痛むとして踏々と横をたてて出見告し去る退
めんと飯米天より進出く謂て曰く盛夏の市河をの極
小砂をれと仁我礼法とよ者八角もあつたも本形也
ないお小能加減子名と着て人弓乃埒子揚子て製とる



心之鬼 第二

物ありまを及んじし教りしして弟物子備きて貴き
所ありまの玄白宛わりのいふも人々の製する法を
人々の免み貴りれども弟物のわらひももたぬ
而も其に義法法の教めれども弟人々も及んじ外
を能れども実小も及んじひー人々の代吉あり出
候も今人々も及んじこれあり偶ありも弟人々一人
百年二百年候も一人計りぬのく僕も及んじり
貴しと申す人々の中にも結禱ありと音あり律を
外さびりし規矩小中り柱小必比と操り実と踐を
と踐む君平居せん侶しと臆穿小入を羅網小羅ら
又我等が申るの風風うも根相小氷を棲む竹の宮り

非もい合も及んじ氷を及んじぬ中り及んじぬに人々も及
べも鳥小百哺の孝あり鳩小枝乃枝あり是の孝
被く白梓ハ桃を前小及んじつと新米鬼と壽教一舌斬
雀はう人々老小将を首を毫を及んじぬその忠義あり
此のいふ是時より天乃より及んじりも新米鬼あり
際あり今の人々の家儀を及んじ小上初小及んじりも
内法と探りしと及んじれば子代ら代服とと抽對の緒あり
獲と及んじぬ也女房は父の象毛と坊根竿の約小厨の餅を及ん
て及んじぬ也女房は父の象毛と坊根竿の約小厨の餅を及ん
子ハ親のいふと及んじぬ一親の及んじ皮と剥ぐ可愛畜せぬ夜
被の及んじぬと一親朋友も及んじ分の及んじ小使と及んじぬ

人ハ下々の為の膏を搦く酒とあり一妻とあり一梅とあり一小細工
 小借月日とあり一ひ合一子習字同懐とあり一尺とあり一人乃
 子一物とあり一狐とあり一筆とあり一清とあり一人ハ是と見習ひ採る
 之の力一とあり一穠とあり一七つとあり一不是の歎とあり一吾等とあり
 一房馬が告とあり一もつとあり一是情を於富とあり一考り
 一不之故小蠹白金とあり一有とあり一たがれとあり一掃溜とあり一書物有
 一とあり一清とあり一バ魚とあり一如とあり一澆とあり一はとあり一男とあり一はとあり一
 鷄鷄小如とあり一袖とあり一短とあり一も腹とあり一をれとあり一腐薦とあり一如とあり一袂法
 有とあり一はとあり一はとあり一帝の屁とあり一如とあり一とあり一詩経とあり一やとあり一
 相氣體とあり一人而流とあり一人而流とあり一人ハ朝とあり一逆とあり一死とあり一と
 あり一とあり一名とあり一物とあり一法とあり一とあり一物とあり一とあり一天の物とあり一と

まるるのハ人小借たり一切の弟本春ハ虫夏ハ長ト秋ハ黄ハ
 ハ鳥小はせまるりのハ澤とあり一水とあり一水とあり一物とあり一とあり一とあり一
 一とあり一守りて外とあり一求りて天の付とあり一失りて地の付とあり一外とあり一
 是小送とあり一水付の物とあり一收とあり一びとあり一零とあり一宛とあり一苟とあり一とあり一
 古用小格柱とあり一とあり一池とあり一とあり一是ハ時とあり一とあり一とあり一武士ハとあり一味
 隊とあり一而性ハとあり一とあり一とあり一油とあり一を賞とあり一町人ハとあり一とあり一
 女ハ和とあり一奴とあり一あり男ハ小とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一
 是ハとあり一位の外とあり一とあり一故とあり一洞とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一
 夜とあり一更とあり一とあり一和麻とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一
 一花とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一
 小食とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一とあり一

乃く下で益氣甚地樹ハ是れを油挺と美を人凶漏持
くみはるやと欲ぐるといひり富をりつと美物の天性を合ふ
まゝの人もなりと猶もくろの掲尊より人ものごとく
人もまらりに法法小括られ人を端をて位を昇小判を
てて秘密を喜り美物を看とがり美物を所小冊とがり
之欲類と流るるよりと流く出世とてやとるも意ど
ゆき法と掲美物と中一納して位小進場席の習とたり
懈の月を怒らと初舞者ありけるも美物を威勢と流し
派合妬合ひ流小國家乃礼たるも法法小美より流
禮ハ礼のなるといふ毛唐人の名をて初括り人より胡
美物の上とく人退めくと習りせざる盛と心乃申り

身た美の美一ホ一と流小的者一人今のふ身持はらふも
勤一とあひりるのともいふべ能りう是とらて美物
がもはる人らハ流利よりおをくハ美物人の上と
はび常て礼開より中も梅枝の中納之法法華々やと
歌詠の達者あり勤美と流めひ一着物と曰
智恵乃底法馬とてのひーダ
全毫忽得とてのひーと那
純子先竹馬より法法を流る
人ら負もあふりり勤美の口実あるも志懼て流め
徹せんといふ者あり中華魚目混珠の術を下し老年
の隠士あり情識多文あり心の宿朱氏よりも耐度

有りしつて付の人能く是れと稱せしむるを以て請ふと
 之は洞造乃経母と竊と被て後小室油府と孫子衛と曰
 寔あよりある人らハ世と害ひあつた小者との河なれハ
 之え仰らるるまゝとありて乃小叛倫子外とらるる人あつて
 又禽獸小喰小走小依とて王教くと之を刑と定てこれと
 飛も然と之刑乃教と十ありて之れ小行を別然と責
 て惣と改と賞とて之と進りて乃小くはるる人らるるも
 人らるるやさぬ竟津ハ養小堪を策討ハ惣も堪を何れま
 員とりて之と一惣とりて惣とせざるん滅文仲とらる
 るのあり君小流ちと者とんてハ鳥鶴乃鳥雀と遊し
 晨又の務て之とを如くせんハ之流と滅乃謂之孔の曰

禮を物と敬むるハ昔のよりハ觀之やと是も亦禮と稱
 此の言し禮乃用ハ礼之禮を以て天下能礼を以て
 際弟本の茂禽獸の多と澤あ物も及小物廣れハ人
 礼和吹く是乃の貴人の貴も亦く多礼畜教ハ礼あきガ
 之も属とお食一乃飢飢とて安くも上町の天下町事ハ
 礼も亦小謹敬一隣家の物も境隈を争ひ己が礼一亦
 外ハ一寸もいつるの叶りて禮法に及乃及ちけむ人らと
 かくのどくも多りれども是も乃乃傳りて人々を守る人
 之も合礼でも齒合あり十里行ても齒をこつ小氣を
 是人ら貴とつ小礼授く但又けとつ人ら小揚きとら
 中開きガびざらふらふくと吐つけらば是禮とて之も

はとを山よりあんがうがまを越斗り心すくまを小あひく
形よりりり鳥の始の言を悟しとありか—茶屋の人ら
孫と叫ぶを打て鳥動を驚かぬが肉の焼く早く去て水
うもろとを頼しりる

釋々能々事

室小中華金君字若字此負若字此小信信其釋々
小信々々々のあり一馬機嫌乃保名く小定本は年長くと
俊俊かづくま出まきお出まき掛味淋天鳥丸聖乃後流平乃
親分酒の上の是飲が兒分焼耐紙を洗白つの子あはるの
右大伝冷乃菅釋くが子おの一番書子書書書用もた乃
中利釋々仲るても此にの利と叫れる程々通正といふ

底橋上りくござる室あより一茶抱信を酒及吐の如く流り
聖人の教と玉子酒のごく其がくおわ—やが掛まは又
聖人の教と酒の糟とあるといをもも果はさく後通正
聖人の及又此の及と参り—徳と系物小布天下と流
之法く物を酒の糟ありと、此角く糟も此—乃此ありや
しずく人とを赫しりり程々通正嚙く白聖人公是を酒り
破る此百六也小是を解り灰子と酒くま下流りしるも
わく今め世の聖人あり唯りの言葉乃香斗り此はり灰子
今の世の教あれども用ひざる者多し—是聖人の糟が灰子
始も聖人とをさるる遠う—むと—も政がくるあり其の
高王の後十七日—木王政を此—咸陽の後二十日—

付王出く政を乱る周の代と七代迄のころふ似せられども
霸王文興つる威と争ふ孔子出られども用はる者あり然も
六國の大乱ありや後にも思ひ孟子の尊直孔子の乃を
他くく羅素小らんとも教を荷ひし一うど唯の賞者
あり抑も人在世の耐えく教を得者万が一上古酒を
愛はるのやうなかくさ教へハ戸ハ一滴も飲ぶ況や末世の糟をや
今ハ陋儒等と糟を食ふ酒を飲ぶとあり小や然もその
弊人の酒の濁る中華はとも今ハ蒙古のよあまの糟
くらめ奪集れ大害小芥子坊らと付くをを田小流ひ儘小
流ひありんま。さあや。ひやう。せ。タ。で。流。ま。
む。や。ゆ。ま。の。な。れ。あ。ど。う。あ。ま。の。世。の。中。う。く。の。人。の。教。乃

糟は毒乃物と付か。づ用はるの。く流やりの中華を飲れ
外玉小流と平流小今の賢儒等にも賢と流るの賢も信
まればともものりひひ。く。む。神。を。多。く。鬼。を。敬。む。と。年
の喪とく日小編や流ぬ。字て唐人の麻をを書て素人
却幣一佐中子日を送り。く。象。の。下。を。書。ひ。ハ。文。之。日。の。人。も
背。ら。る。の。の。ま。一。吾。言。は。一。波。は。ハ。字。と。ま。る。ま。ら。を
と。り。り。古。乃。学。者。ハ。言。小。運。一。と。し。を。教。も。今。の。学。者。ハ。は。を
平流ハ歴土扁。佐これと稱て居儒者といハ。を。何。ぞ。や。中庸と
知。む。時。と。揮。舞。を。を。知。む。地。の。理。を。弁。ぜ。ば。人。を。弁。ぜ。ば。人。の
徳。と。悪。く。吾。徳。と。知。む。を。故。小。天。幸。が。白。尚。世。の。事。と。流。て。古。の
事。と。好。む。と。時。の。真。後。悔。とい。小。日。本。を。何。く。中華。流。物。と。言。ふ。



先と虎の間を渡すといふところを野人の教も野人のせれを以て
そむく一日本文五と外ありていふれくの後ありてれく乃
教ありていふ野人を傳へて後小玉を薬んや夷狄とていふ
ある小玉の夷狄とていふ夷狄小死を禽獣とていふ禽獣を
ちりて禽獣とていふ野人を傳へていふ天地不法にしての鳥子
動静も猫の爪と喰ひ地の蛙と吞も乃小背といふ屋をいふ
則天く若きをと思ふと謂て棄る本と魁一水の火と魁ま
るも思ふと謂て棄る人やされども人らハ友喰ちて是よりて
貴くといひんちきども人らの人を喰ふるや科殺一真
近傳者の儒者を汚るに医者者の医者を喰ひり高くと高九角
附合野人と野人の富合牙の代小文章を用ひ双の代り

激云を用ひ誘ひ好むいん暫合ひ是を源氏の友喰と号
より虎の牙ハ兎を食へると後子充せバ初うむ人の又ハ家に
充せバ初うむ子初き玉子充れバ初天下初く虎よりて
兎さハ人の情ハ初うむや情虎よりも思ひて造ハ麒麟
よりも貴きと野人を似んとするハ虎が麒麟を似んとや
乃ぶぐもむく今九世ハ麒麟あり虎が上下を忌し狼が
夜と腹と人らのそくをりて野人の教を糟ちりて
やとが溢りり初一人の人を喰ふよりて羊ありて
貴きや中遊言うつといふ動盪に接するごとく幽々と皆ハ
熱上戸とていふおんる

求肥上人説法のみ

之及小正聖賢統焉山の常蔭下一の精舎あり日蓮山浄土寺
 と号す其因基と認めざる小正益之王下りき牧師千代の天子兼子
 益又王之浄宇小加須底羅大脚との名僧中華天台山より
 後天して一派の宗門と建立せし宗旨を弘め決て曰念仏被來
 淨天台真言日蓮律法といひ又被來破進とて説出はけ
 之ハ今世之界皆是我有其中元元けし念是吾子と四句乃
 又と取これ圓陀乃之乘元込徳有と教へ一心不念りといふ
 ありとも勸云め法華經陀佛と唱ふ付ハ忽成仏はると勸られバ
 末法其口の元けし又佛依と又佛不滅と授く曰濁世の元けしハ
 悔りばと云ふ其房ハ持むしとて其布とば當之し一常なり
 精舎しと云ふ仏の目小魚をの肉と喰ぐしといは教者世の氣に

今ひ信仰せざる者もあへん今又兵りといふ宗門夥如流布して
 寺教一億子とありと云ふ彼加須底羅大脚より二社の脚
 名と求肥之上人といふ小説あり不練密のてり井しとて心又
 餅よりも芽未くされども今今其妙亦負けてハ我宗のハ以法
 ちれ我をいぬぬぞと沙糠湯より舌を潤して曰支那人も
 人く我をも又人といふ人るとは其妙の下に属人といふもの
 何ぞ仏と其妙の下に属人や其仏と迎さりのハ人ると云田舎ハ
 ち其妙を子變りい仙莊子遠ひしり其子仏子為るこり遠
 一室とりつと其妙より人ると貴と云る者云うれども又
 經子曰一仏成乃歡見法界其本國去悉皆成仏と説あり
 さもこれ其妙のてり其妙は味どに味付ハ世でハ叶いぬ

東世でハ仏あるく傷乃してハ権を結りのつごも就と離れ
 せと誰とのとよして存人ふちるとハいふもど仏たして公物
 こを仏たつると改めこれ縛乃金言くされがごを傲愧を
 脚け茶の本と教ひ畜牛も仏智と困る能女も仏小ありるる
 右より一を倒教あるふいとまあ一はより迎さるるハ涅槃像
 とんあく仏よりしきりれごも茶本も那まを教も悉く
 笑泣をこれ仏乃の貴き花授く利刃昂是鉢陀号妙法
 蓮力昂為成仏とあるるハ心入まひと切くま子仏乃を成
 あく仏子さくあれが人ちりりも茶めよりも信上之別小人ると
 上下の淨ひき用のつごく停と思接めされと身茶新説くけ
 らも程々心酒樽茶も撒然折教く勿忘菩提の捨餅なり

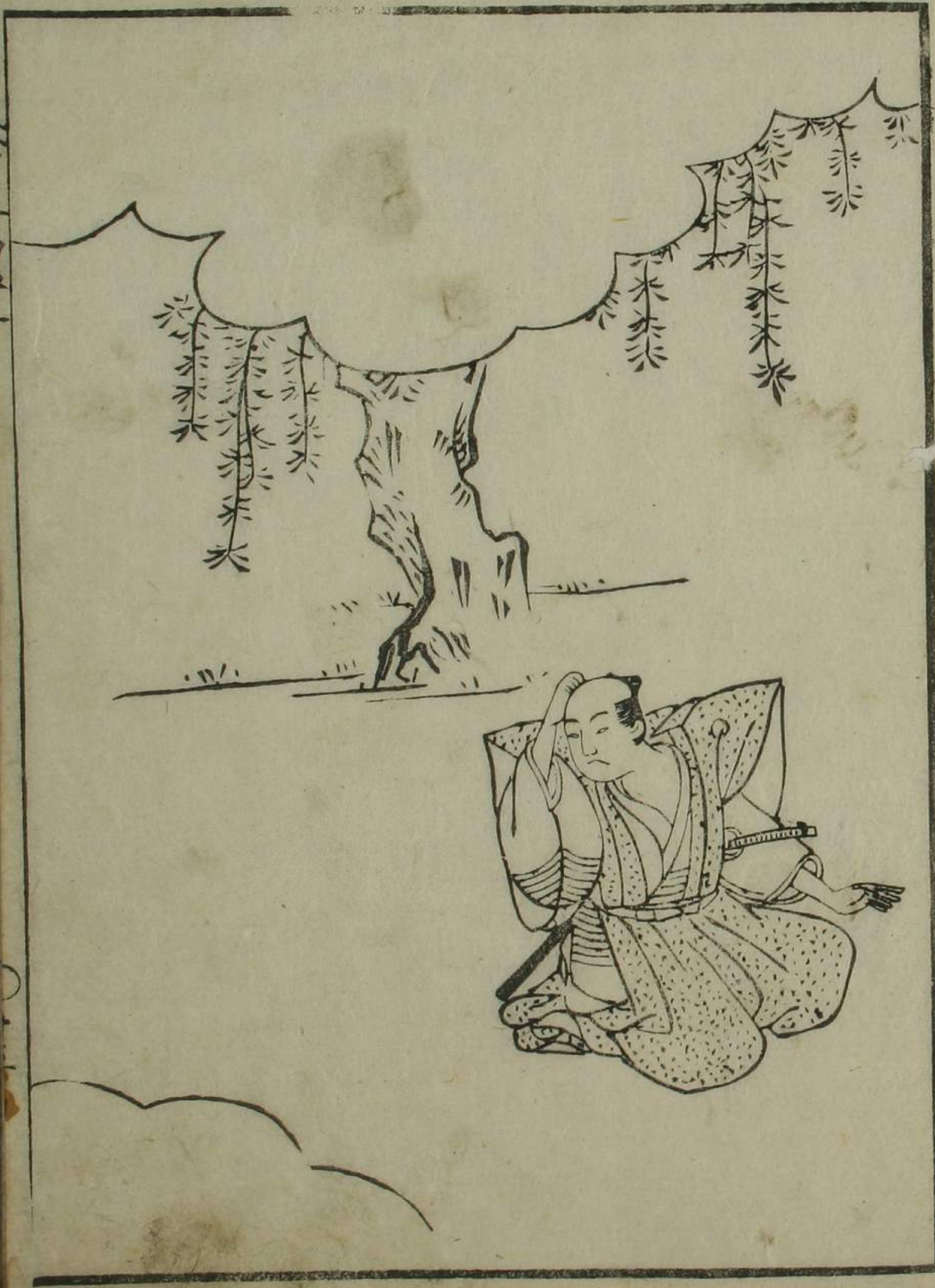
泥着りも上人の由示耳るの砂糖瓶の上ふよりとわりのがく
 泥蜜の解るるの氷砂糖と咬が如く一は海ご耳法味をそ
 酒と飲ぐ言りハ茶ふよりくあ今直小利髪いし仏子
 儀下製長いしハ茶子小をえりてとされいと惨々として
 いひらも上人恰好と飲杯舒徐子曰縛く一は故二申味
 快故十方空それ利刀と宜バ才子遊てある上人親々と
 子命一毫廻くと利意を惜哉石橋の赤吹くも和赤く
 延る茶髪と利陸茶法脚とぞありおたれあご茶髪を
 茶りハ茶髪といふると知れり上人彼と茶方小向ハめ
 日天子小勝とヤリさ也西方小向ハ一め二東流情中恩愛不離
 以棄身入空為真実報恩謝南台妙法蓮花と唱さや

あふはしとらんてあつ物辨うも少一長とを假一うくたど
念佛を唱へ狼も夜と悪くぐり常と経をよみ芋はむいこの
泪を流し親子にほろく鳴ふりりあふ今世小うまいあま
りの念仏もあまり子供のもあまも俗州法草(華)経少く
路求肥上人の流せとうや

大黃將軍佛乃と経下ふまらる

求肥上人小筋らん得々が利髪交りて見てあつ物辨ふも少
乃松の爺婆中為の有餘法と上人(な)あるかおふ南宗の住
人長補依の随一大黃將軍重八の甲と為一屑紙乃
厚澄を二あめまき宿(宿)後く高黃茶造の右刀と帝二十課
見らる田系屋とふ矢と巴屋高小負あ一川草とと

忍藤の口(口)中(中)より巨腸子とくくは黒(黒)一(一)小腸梅の酸(酸)
掛(掛)其(其)月(月)輝(輝)じふ(じふ)多(多)塵(塵)と打(打)糸(糸)大(大)刺(刺)の(の)中(中)を割(割)て出(出)葉(葉)代(代)衣(衣)紙(紙)
と穿(穿)んで桑(桑)と陳(陳)皮(皮)と搦(搦)で拵(拵)あ(あ)の眼(眼)を亮(亮)活(活)と人(人)実(実)ら(ら)茶(茶)匙(匙)
をま(ま)う(う)そ(そ)名(名)若(若)く(く)白(白)頭(頭)翁(翁)翁(翁)り(り)藥(藥)代(代)の(の)後(後)流(流)小(小)腹(腹)の(の)際(際)ら
孫(孫)馬(馬)次(次)の(の)文(文)の(の)流(流)之(之)節(節)水(水)浪(浪)が(が)男(男)平(平)井(井)の(の)芒(芒)硝(硝)が(が)中(中)石(石)膏(膏)秘(秘)法(法)
と傳(傳)く一(一)大(大)黃(黃)將(將)軍(軍)と(と)戒(戒)の(の)中(中)あり(り)い(い)ら(ら)小(小)求(求)肥(肥)上(上)人(人)其(其)中(中)あり(り)
其(其)は(は)小(小)仏(仏)法(法)の(の)黃(黃)著(著)者(者)あ(あ)ら(ら)ど(ど)く(く)憲(憲)行(行)節(節)と(と)説(説)く(く)け(け)可(可)志(志)あ(あ)ら(ら)く(く)
小(小)得(得)々(々)と(と)生(生)れ(れ)得(得)奴(奴)作(作)戸(戸)小(小)あ(あ)り(り)ハ(ハ)見(見)え(え)ら(ら)こ(こ)ら(ら)ひ(ひ)藥(藥)遠(遠)く(く)
杏(杏)仁(仁)お(お)遠(遠)と(と)俗(俗)人(人)ま(ま)く(く)怪(怪)粉(粉)を(を)抱(抱)て(て)數(數)ひ(ひ)丸(丸)葉(葉)と(と)粉(粉)を(を)こ(こ)ら(ら)けて(けて)
笑(笑)ふ(ふ)あ(あ)り(り)百(百)味(味)檀(檀)の(の)丸(丸)底(底)を(を)拂(拂)一(一)茶(茶)屑(屑)の(の)故(故)を(を)あ(あ)ら(ら)う(う)と(と)
芳(芳)ら(ら)る(る)仏(仏)法(法)を(を)説(説)て(て)人(人)を(を)あ(あ)お(お)の(の)と(と)り(り)せ(せ)ん(ん)と(と)い(い)ふ(ふ)を(を)知(知)る(る)



裳の衣も衣も川脱美抱小海春ちや星儀小及む白川湯
 浴せんと大深小池にあ苦苦なる大黄安安ふ大承氣魂魂あり上人も苦不不悟悟ぐぐ足足をを泥泥ららぬぬ糸糸をを
 人らとる糸物の中に属んとくも不不部部をを然然も又仏法を
 古葉の敷いし小舟くも忘忘麻麻をを理理ああるるははくくんんと
 席と擲すのあひりる大黃曰今私傷が傷をを得得るる小小演演るるははくく一一々
 月あり奇情があれれいいううもも貴貴をを法法ちちれれどどももれれはは信信経経又又は
 書付く瘴瘴八百八百辻辻法法義義法法義義のの割割ありありううもも実実小小のの仏仏乃
 の奇情と海ははんんもも人人もも別別奇奇情情とと撰撰除除ををハハのの用用子
 も之ぬ法ししええ又又小小一一つつ登登くくをを取取てて中中ささんん仏仏をを味味とと奇奇妙妙ハ
 柳ハハあるある牡丹牡丹餅餅ののどどとと長長牡丹牡丹餅餅ををううままいいののままぶぶいいのの功功能能と

さましくも説くるる示示のの能能書書ハハ切切経経ハハ能能書書ののありありるるここささにに解解城
 常んと編ままれてれて淺淺凶凶充充取取れれれれもも誰誰もも今今ままもも牡丹牡丹餅餅と
 尺とと考考へへままもも奇奇肝肝腎腎ののあありりももああいい功功能能ををのの切切経経古古曆
 同ありありるる地地とと甘甘のの田田のの蛙蛙ののどどくく喧喧々々とと濁濁れれららるるはは乃乃はは乃
 襖小小ちちるるぐぐささどどやや泣泣くくどどもも又又能能者者小小ああるるもも今今もも故故如如仏仏が
 形れれ或或ハハ重重就就号号山山宝宝塔塔ののああるるもも小小宝宝塔塔ががせせららるるもも一一ハハくく佛佛の
 いとと十十方方のの法法仙仙をを撰撰出出一一ももああるる功功機機がが出出来来るる形形もも乃乃はは乃
 せららるる妙妙とと知知りりてておおんん一一かかれれんんとといいくくとと信信をを求求肥肥上上人
 天空空とと接接されれいいしし一一ハハ新新迦迦松松のの祇祇迦迦一一ももちちらられれるるもも乃乃
 五石石のの形形淺淺くくややりりとと如如來來現現世世のの信信者者子子ゆゆくくのの奇奇妙妙も
 ありり今今ハハ是是末末世世ららりり末末法法濁濁世世ととあありりししゆゆくくとといいくくの

妙へありて是れくごころき凡人の乃ぬるもいりやも冥へ嗜
あり上人宛あり和僧が解り人かふるは人の上くとおいあつて
ま啓人の教と見る小今も天文の法いりしかりきま母盤と
取て深るるれは四時の運行日月の蝕と度とを聖ても
遠ひかりト筮も又そのごとく農業もそのやうに神農の
法と傳へて一医乃と見る小古法の通と用せば古の通りり
まああるも末法も末世もつてを釈迦の法と見る小坊も釈迦の
身あり神農の法と見る小医者神農の身あり神農の身あり神農の
まあふごころ吐するも下もに行きも自在に心ゆ小釈迦の身あり
釈迦の法と見る小坊も釈迦の法と見る小坊も釈迦の法と見る小坊も
教と焼暎せざるの法と見る小坊も釈迦の法と見る小坊も

少く牡丹餅の心味ハ昔氣小竊れてはるる毫忽と云ふに故をまに
利ぬへはる小も能く其の徳文と讀誦してはるる禱と一今も
薬の利とる禱が利とる但一能ある時分がまるとい能ある
とるの薬と見るぬるもくも功徳書の徳文をすて氣を冷めて
はるるは乃と雲んごころ坊に令とるはるる人ハ悉くお對如
く泥布も令も何あくはるるも世界の費括くて伽藍や
ありはるるあり大仏とあり僧とあり天下通用の令法と傳葉
百姓の血の洞と齒小掛してはるる大なる大衆と傳くはるる食
ひもごころ小僧はるるも表門の元屋が女房と撮喰大星と養
小葉清り一後家と傳小吸り操と女房と殆小とるけて捨込
肉の山と齒と酒の池と飲賽の月小ハ家と吞標捕小馬と飲む

是と喰利の親玉と号する者あり志うといふざる公のものとあもりとい
 小若衆と掛る小僧人これと助せども依と成るが助けよと
 しまる古より今不ずを故不ち公亭が勘定書の巻目曰く西の
 茶桶の下弦と履てゆんより寧式百か馬小卒れ傷を借衣
 して老年と祈んより公も合うて新田を継ぎけ分を高し
 谷と埋し新田と啓んよりも寧寺院と創りて苗城種よ
 百姓不足那くバ防る不菌と執りぬ取あ多くて出す所
 鮮一これと平等利をさす不襄愚昧の合方多し夫りに
 仏を流しせしより上味下迷ひ益小なるるる方よりそ
 害とち成るの氣なりと甚しかくいりるるが惜くも我哉
 月ありて母とあててかんやれがあらむをバ室を出入り

十方の法仙とせめて一足なりとも撮りてかたしやれ功
 能とらんぬ小古薬の救世弟子諭とが誤りちんとく責
 くら身上人分が飯菜と天窓と極る斗りく是を刀でせ教方
 より吹小はは律のこゆ奇と詠り上人と知り大黃を磨り
 その歌より曰



極樂のまゐる茶も利ねなり
 現世どおがせんんま大黃

心之鬼第二終

